

令和4年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	長岡技術科学大学	主な交流先	英国・インド
事 業 名	マルチディメンジョン・キャンパスでのデュアルインターンシップを活用した国際協働学習プログラム		
海 外 の 相 手 校	ヨーク大学、インド工科大学マドラス校		

〔評価コメント〕

本事業計画は、SDGsのゴール7、8、9、11、12、13を見据えてグローバルに活躍できる指導的技術者の養成を目指し、これまでの実績を生かして、対面型、オンライン型、バーチャル型交流を効果的に組み合わせたマルチディメンジョン・キャンパス(XC)を構築し、さらに異なる場所(国)と内容の複数回からなるデュアルインターンシップを実施することにより、日本人学生と外国人学生が多面的な国際協働学習プログラムに参加できる意欲的な取組であり、大学の全学的な実施体制と共に学外の構成員や組織を含む評価と協力体制を構築している計画で非常に高く評価できる。

また、学生の支援体制も、海外の現地大学だけでなく産業界との連携が密接に図られ、十分なサポートが受けられるよう計画している。さらに、産業界を巻き込んだ交流プログラムや留学生支援(渡航支援を含む)が当初より企画されており、将来的な展開に期待できる。とりわけ、企業や自治体を巻き込んだインターンシップは、海外交流大学の学生にとっても魅力的なものとなることが期待され、高く評価できる。

一方で、派遣日本人学生に求められる外国語力基準について、英国とインドの大学を対象とする上では不十分といわざるを得ない。「指導的技術者」を目指すという観点からプログラムの質を担保し、派遣先での日常生活に支障なく学修活動をより有意義にするための基準として見直すことが必要であると考えられる。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。また、本事業は、補助期間終了後は自立的に事業を継続することが前提とされていることから、継続的かつ発展的に質保証を伴った事業を展開されたい。